

上級日本語学習者の 小説読解における誤った語義解釈

—中国語・韓国語・英語母語話者の
読解過程に関する一考察

藤原未雪

◆要旨

文章理解で重要となる文脈の中での語の認知に注目し、日本語が上級レベルの大学生が約100文からなる日本語の小説を読むときの語義解釈を調査した。中国語・韓国語・英語母語話者それぞれ8名ずつ、合計24名を調査対象者とし、小説を読みながら口頭で母語に翻訳する方法で調査した結果、誤った語義解釈であっても、その多くは部分的またはすべての文脈と整合性を持つようになされることがわかった。また、誤った語義解釈がつくられる要因には、(a) 漢字の字形認識における誤り、(b) 音韻情報の使用における誤り、(c) 語の構成要素の分析における誤り、(d) 多義的な表現の解釈における誤り、があることがわかった。

◆キーワード

小説、読解、語義解釈、文脈、
上級日本語学習者

◆ABSTRACT

This study focuses on word cognition in context, which is essential to text comprehension, and examines how advanced Chinese-, Korean-, and English-speaking learners of Japanese interpret word semantics when they read a Japanese novel. The total of 24 university students participated in a survey that collected the participants' verbal reports. According to the results, learners develop coherent word semantics of interpretation partially or totally according to the contexts, although they miscomprehend the word semantics. Further, it is suggested that the factors that cause the miscomprehension of word semantics are the following: (a) errors in morphological recognition of kanji, (b) errors in using phonetic information, (c) errors in analysis of word formation, and (d) errors in interpretation of polysemic words.

◆KEY WORDS

novels, reading comprehension, word semantics, context, advanced Japanese learner

Advanced Japanese Learners'
Miscomprehensions of Word Semantics
While Reading Japanese Novels
A Study of Chinese, Korean,
and English Speakers' Reading Process
MIYUKI FUJIWARA

1 この論文の目的

文章理解で重要なのは、文章を構成する語の意味がわかることである。我々の実際の文章理解、つまり読解活動を顧みると、単独で提示された語を読むことは少なく、前後に文脈を伴う形で語を理解する場合がほとんどであり(久野2009)、文脈における語の認知であると言える。「文脈」という用語は言語学やその関連分野で柔軟に使われているが、ここでその用語を定義しておく。山梨(1988)によると、文脈は言語的な脈絡としての前後関係の意味で用いられる「言語的な文脈」と、問題の言語表現や発話の場面・状況の意味で使われる「言語外的な文脈」に区別される。前者は、すでに言及されている話題やテーマ、先行する文や発話によって規定される情報から構成され、後者は、問題の表現や発話の背景、その即物的な場にかかわる具体的な事物や対象によって規定される情報から構成される。以下、本稿で言う文脈とは「言語的な文脈」を指す。

近年、読解過程についての実証的な研究が増えている。語義解釈と文脈の関係を扱う研究に蒙(2018)がある。蒙(2018)は日本語学習者と日本語母語話者が固有名詞を理解する際に、文脈の手がかりをどのように用いるかを明らかにした。しかし、同研究は一文レベルの語義解釈を扱ったものである。文脈における語義解釈の実態を明らかにするためには、複数の文にまたがる文脈における調査が必要である。文脈には、今まさに読んでいる当該文の文脈だけでなく、当該文の直前直後の文脈もある。さらに物語文の場合には、その物語(ストーリー)をまとめたような集約的な文脈もある。本稿では、このようなものを広く文脈として扱う。

本稿は、日本語が上級レベルの大学生が約100文からなる小説を読むときの語義解釈に注目する。語義解釈にはテキストの文脈や文法から妥当と考えられる正しい解釈もあれば、そうではない誤った解釈もある。そのうち本稿は、誤った語義解釈がつくられる要因を考察する。その際、語義解釈と文脈との整合性も検討する。第二言語(以下、L2)で読む学習者にとって、誤った語義解釈はしばしば起こり得るものであり、それがどのような要因でつくられるかをすることは、読解教育を考える上で有用である。

2 調査の概要

2.1 調査対象者

調査対象者は、日本の大学や研究機関に在籍する20代の中国語母語話者(以下、中)8名、韓国語母語話者(以下、韓)8名、英語母語話者(以下、英)8名である。中は全員N1取得、韓はN1またはN2取得者であり、N2取得者も日本留学試験の日本語科目で266点以上を取得している。英のうち6名はN1またはN2取得者であり、英全員のSPOT90^[註1]は70～88点である。以上から調査対象者の日本語能力はほぼ上級と言える。調査は2016年4月から2018年10月に行われた。

2.2 調査方法

調査で用いた小説^[註2]の全文を稿末に載せる。調査では、読み手の読解過程を可視化するために、小説を読みながら口頭で母語に翻訳してもらおう。その際、読み手の読解中に、調査者は、適宜、解釈の詳細を明らかにするための質問をする。具体的には次の手順である。(i)辞書の使用を認める。小説を黙読し、一文ずつ口頭で翻訳してもらおう。調査協力者は読みながら、理解できない点や推測したこと、また、解釈の変更についても話す。これらをすべて調査対象者の母語で行う。調査の前に、別の小説を使い、この発話方法に慣れるために練習する。(ii)語義解釈の困難点となりそうな箇所について、調査対象者にその内容理解を確認する質問を行う。その際、なぜそのように解釈したかがわかるように適宜質問を重ねる。(iii)調査対象者と調査者とのやりとりについては、調査対象者の母語の通訳者が同席し、同時通訳に近い形で通訳する。それらをICレコーダーで録音し、調査後に文字化する。

3 誤った語義解釈と文脈との整合性

本稿における「誤った語義解釈」とは次の(1)または(2)とする。

- (1) ある語を見て想起した意味が、辞書的な意味として誤っている語義解釈
- (2) 文脈と意味的に整合性がとれないことがある語義解釈

ここで文脈についてももう少し詳しく説明しておく。本稿の言う文脈とは、1で述べた「言語的な文脈」を指す。石黒(2008)は、文章理解は「先行文脈との関係の把握」「当該文の理解」「後続文脈の予測」という三つのプロセスを経るものとしている。本稿では石黒(2008)を援用し、本稿で扱う言語的な文脈を次のa.~c.のように定義する。

- a. 先行文脈 : a-1. 先行直前文脈、a-2. 先行集合文脈 (ストーリー文脈)
- b. 当該文 (当該文脈)
- c. 後続文脈 (直後文脈)

まず、a.先行文脈は、a-1.先行直前文脈とa-2.先行集合文脈からなる。先行直前文脈とは当該文の直前の文が規定する情報である。一方、先行集合文脈とは、当該文に至るまでに得られた情報の集合体であり、ストーリーとして理解されているものである。次にb.当該文(当該文脈)であるが、これは今、まさに読んでいいる文が規定する情報である。蒙(2018)が分析の対象とした1文レベルと同義である。そして、c.後続文脈とは当該文の直後の文が規定する情報である。本稿が扱う文脈をa.~c.としたのは、本稿の読解観は文章の冒頭から結末まで1文1文順に読んでいき、その展開をたどっていくという「たどり読み」(時枝1951)を基本とするが、それに加え「振り返り」も考慮するためである。我々の読解活動を顧みると、当該文を解釈する際、そのヒントを得るために直後の文にも一旦視線を走らせてから、再び当該文に「返ってくる」ことは自然であると考えられる。実際、本調査での学習者の発話からもその様子が見られた。また、文章として明示されていないが、文章から推測可能な命題も文脈として用いられる。

調査で見られた誤った語義解釈が、先行文脈、当該文脈、後続文脈とどのような関係にあるかを調べるために表1のように検討した。語義解釈の正誤の妥当性と文脈との整合性については、日本語教育関係の修士号を持つ、筆者を含

めた3名で協議し、判定した。以下に誤った語義解釈と文脈との整合性について具体例を示して説明する。次の(a)から(c)では、整合性の度合いを高い順に○、△、×で示し、()内に誤読した学習者の母語と人数を載せる。

(a) 語義解釈がすべての文脈と整合性がある例

当該文：朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、**舞いあがって**、シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、あぐらをかいていたはず。
(「彼」^[註3] p.36)

「舞いあがって」を「舞台上がって」と解釈する(中2・韓1・英1)が、これは辞書的な意味としては誤りである。この語義解釈と文脈との整合性を見ると、(3)に示すような「新郎は結婚式に出ている、その式場には舞台(ひな壇)があり、新郎はそこに上がる」という先行文脈(先行集合文脈)と意味的に食い違いがなく、整合性がとれている(○)。このような場合を以下(○)と記す。当該文脈においても、「(新郎は)結婚式では緊張して、結婚式の舞台にあがっている」という解釈は妥当性がある(○)。さらに、(4)に示す後続文脈とも整合性はとれている(○)。よって、意味的に食い違う文脈はなく、すべての文脈と整合性があると言える。

- (3) 先行文脈：新郎は結婚式に出ている(結婚式には舞台がある)。
- (4) 後続文脈：そして今頃は二次会か。
(「彼」 p.36)

(b) 語義解釈が部分的には文脈と整合するが、別の文脈では食い違う例

当該文：キザな**文句**。
(「彼女」^[註4] p.28)

「文句」は「文言」と「不満」という2つの意味がある多義語である。当該文では「文言」の意味であるが、学習者は「不満」と誤って解釈する(中3・韓2・英4)。この語義解釈と文脈との整合性を見ると、当該文脈や後続文脈とは

意味的に食い違いがなく、整合性があると言える(○)。しかし、別の文脈に目を向けると、(5)に示すような「男はバーで初対面の彼女の気をひくため「互いに願いを叶え合いませんか」「僕は君の電話番号を知りたい」と切り出した」という先行文脈とは意味的に食い違いが見られ、整合性を持たせるには特別な状況が必要となる(△)。このような場合を以下(△)と記す。

(5) 先行文脈：バーで隣に座った男に声をかけられ、「互いに願いを叶え合いませんか」「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」と言われた。

(6) 後続文脈：私は失笑して言った。 (「彼女」p28)

(c) 語義解釈が文脈と大きく食い違っている例

当該文：お願いだから **放っておいて** ほしい。 (「彼女」p28)

「放っておいて」を字形の類似から「訪問して」と解釈する(韓1)が、これは辞書的な意味として誤っている。この語義解釈と文脈との整合性を見ると、「訪問してほしい」という解釈は当該文脈とは食い違いがないが(○)、(7)に示すような「胸のざわめきを一人で鎮めたかった」という先行文脈と、(8)に示すような「(一人になりたいくて)席を立ちかけた」という後続文脈とは反対の意味となり、大きく食い違い、整合性がとれない(×)。このような場合を以下(×)と記す。

(7) 先行文脈：胸のざわめきを一人で鎮めたかったのに、隣席の男から質問攻めにあっていた。

(8) 後続文脈：(一人になりたいくて)私が席を立ちかけた瞬間、男は言った。 (「彼女」p28)

上述のように、誤った語義解釈と文脈との関係を1つ1つ検討した。すべての文脈と整合性があると考えられるものを○、部分的には文脈と整合するが別

表1 誤った語義解釈と文脈との整合性の検討(抜粋)

先行文脈(上段：先行直前文脈、 下段：“先行集合文脈”)	当該文脈	後続文脈	文脈との整合性
	誤った語義解釈		
【彼女3】なのに隣席から声をかけられ、気がつくと星座がどうの血液型がどうのと質問攻めにあっていた。 “元恋人が結婚して、胸のざわめきを鎮めたかったのに、隣席の男から質問攻めにあっていた。”	【彼女4】お願いだから 放っておいて ほしい。 訪問して(韓1)	【彼女5】私が席を立ちかけた瞬間、男は言った。	先× 当○ 後× ×(一人になりたいので、訪問してほしい。)
【彼女48】それともただの世話好きか。 “それまでその男に興味はなかったが、興味がわいてきて、初めて男を正面から見た。”	【彼女49】 妙に 胸を騒がせる疑念は、久々に芽生えた好奇心だった。 一秒ごとに(韓1)	【彼女50】この人のことをもう少し知ってみたい気がする。	先○ 当○ 後○ ○(最初は興味がなかったが、次第に興味を持ち始めた。)
【彼女47】この人はキザなのかお人良しなのか。 “見ず知らずの男がバーで話しかけてきて、女を質問攻めしている。”	【彼女48】それともただの 世話好き か。 世の中の話が好き(韓3・英1)	【彼女49】妙に胸を騒がせる疑念は、久々に芽生えた好奇心でもあった。	先○ 当○ 後○
【彼女39】なんせ自分の結婚式だ。 “新郎は結婚式に出ている。結婚式の会場には舞台がある。”	【彼女40】朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、 舞いあがって 、シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、あぐらをかいていたはず。 舞台上がって(中2・韓1・英1)	【彼女41】そして今頃は二次会か。	先○ 当○ 後○ ○(結婚式には舞台(ひな壇)があり、新郎はそこにあがる。)
【彼女43】けれど男は驚くほど誠実な困惑顔を保ったまま、胸のポケットに挿していたペンに手を延ばした。 “二人は初対面で、互いの名前は見えない。”	【彼女44-1】「 降参 」です。 「降参」という男性名(中1)	【彼女44-2】時を戻せない僕にはあなたの願いを叶えることができない	先○ 当○ 後○ ○(初対面なので自分の名前を言う。)
【彼女33-5】「もしも二時間前に戻れたら……」 “彼女は結婚式に出席していた。花嫁はブーケを持っている。”	【彼女34】私は 花嫁 の手にしてたブーケの色に似たミモザを見下ろしながら呟いた。 花屋(韓1)	【彼女35】「どんなにつらくとも、彼にちゃんと伝えたい」	先△(物語の流れの中で、花屋が登場するのは不自然。) 当○ 後○
【彼女44-4】「でも、もしもその新郎の電話番号を教えてください、あなたの伝えたかった言葉を代わりにお伝えすることはできますが……」 “男は新郎に電話をかけて彼女の代わりに彼女の祝福の言葉を伝えようとしている。”	【彼女45】私は初めて男を 正面 から捉えた。 正義感のある人だと思った。(中1)	【彼女46】思ったよりも丸顔の三枚目風だった。	先○ 当○ 後○ ○(中国語で「正面」は積極的、正義感のあるというポジティブな意味がある。)

【彼女33-5】「もしも二時間前に戻れたら……」 “彼女はバーに立ち寄り胸のざわめきを鎮めたかった。バーはお酒を飲む場所。”	【彼女34】私は花嫁の手にしてはブーケの色に似た【ミモザ】を見下ろしながら呟いた。 花 (中6・韓7)	【彼女35】「どんなにつらくても、彼にちゃんと伝えたい」 【彼女36-39】無理をして微笑んだが、ミモザに涙が沈んでいた。酔っている。	先△ 当○ 後△ ○ (花:ブーケの色に似ている。)
【彼女8】「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」 “互いに願いを叶え合いませんか」と男が切り出した。”	【彼女9】キザな【文句】。 不満 (中3・韓2・英4)	【彼女10】私は失笑して言った。	先△ 当△ 後△
【彼39】なんせ自分の結婚式だ。 “新郎は結婚式に出席している。日本式の結婚式では新郎はあくらをかいて座る習慣がある。”	【彼40】朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、舞いあがって、シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、【あくらをかいていた】はず。 足を組んで座る (字義通りの意味) (中1・英1)	【彼41】そして今頃は二次会か。	先○ (日本式の結婚式では新郎はあくらをかいて座る。) 当△ 後○

【彼女】【彼】: 材料文。番号は稿末資料の文番号。先: 先行文脈 当: 当該文脈 後: 後続文脈

の文脈とは整合性がないものを△、文脈と大きく食い違いがあるものを×として表2にまとめた。表の一番左には次の4で述べる語の特性も示す。

表2より、誤った語義解釈は全部で42例あり、うち33例がすべての文脈または部分的に文脈と整合性を持つことがわかる。

ここまで誤った語義解釈と文脈との関係を見てきたが、次の4では、誤った語義解釈のもとになった要因について、語が持つ特性に焦点をあてて分析する。

表2 誤った語義解釈と文脈との整合性

	小説中の用例	誤った語義解釈	文脈
漢字の字形認識	今は後悔の【魂】。彼との別れを後悔している。【彼女33】	鬼 (韓4・英2)、魂 (英1)	○
	元同僚として当然よ、なんて【突っぱねて】ね。【彼女30】	笑ってね (英3)	○
	よく見ると昔の祖母よりも歯並びが良く、【肩】のラインも美しい。【彼34】	肩 (韓1・英1)	○
	お願いだから【放って】おいてほしい。【彼女4】	訪問して (韓1)	×
	【妙に】胸を騒がせる疑念は、徐々に芽生えた好奇心だった。【彼女49】	一秒ごとに (韓1)、少し (韓1)	○
	無理をして【微笑んだ】。【彼女38】	特徴のある笑いをした (韓1)	○
	男は【腫】を強ばらせ、とても素朴な困惑顔をしてみせた。【彼女28】	唾 (韓1)	○
	【皆】の前では平静を装っていたものの【略】【彼2】	階段 (韓1)	○
	シャワーのように【降り】そそぐ祝福に慣れきって【略】【彼40】	隣り (英1)	×

音韻	つまらない【意地】の張り合いから彼を失ってしまう以前の自分【略】【彼女14】	意志 (韓4)	△
	「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」【彼女8】	(人)を指して (韓1)	△
	元同僚として当然よ、なんて【突っぱねて】ね。【彼女30】	突然言って (中4・韓2)	○
	この人はキザなのかお人良しなのか。それともただの【世話好き】か。【彼女47-48】	世の中の話が好き (韓3・英1)	○
	別の女と晴れやかに笑っていた【新郎】がまだ私の恋人だった二年前。【彼女12】	元恋人の男性名 (韓3・英1) (うち、「シンタロウ」2)	○
	だって式の【間中】、私が考えていたのはたった一つきりだから。【彼女30】	真ん中 (中1・韓3)	○
	朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、【舞いあがって】、【略】【彼40】	舞台上がって (中2・韓1・英1)、踊って (韓1・英2)	○
	【降参】です。時を戻せない僕にはあなたの願いを叶えることができない。【彼女44】	「降参」という男性名 (中1) 降りて参加する (韓1) 参加したのに帰る (韓1)	○ × ×
	元恋人の結婚式の帰りに、初めて一人でバーへ【立ち寄った】。【彼女1】	立った (中1) 近づいた (英1)	○ ○
	思ったよりも丸顔の【三枚目】風だった。【彼女46】	目の形の一つ (中1) 三次元の顔 (英1)	○ ○
	キザな文句。私は【失笑して】言った。【彼女9-10】	笑いを失う (韓1)	○
	私は【花嫁】の手にしてはブーケの色に似たミモザを【略】【彼女34】	花屋 (韓1)	△
	つまらない意地の【張り合い】から彼を失ってしまう以前の自分【略】【彼女14】	頑張りあい (韓1)	△
	多義的な表現	私は言葉に【詰まった】。【彼女22】	問い詰めた (韓1)
僕は以前、得意【先の】係長に教わった「とっておきの殺し文句」【略】【彼13】		前の (英1)	×
【年中】そうこぼしていた祖母の涙面が脳裏をかすめていく。【彼19】		年の中ごろ (中1)	○
私は初めて男を【正面】から捉えた。【彼女45】		正義感のある人 (中1) 外見で誘惑した (英1)	○ ○
祖母の魂が今日を限り昇天してしまうことを思うと、【おばあちゃんっ子】の僕には並々ならない喪失感があった。【彼2】		おばあちゃんの子ども (中1・韓5)	×
私は花嫁の手にしてはブーケの色に似た【ミモザ】を見下ろしながら呟いた。【彼女34】		花 (中6・韓7) ドレス、(韓1)	△△
つまらない意地の張り合いから彼を失ってしまう以前の自分【略】【彼女14】		boring (韓6・英4)	△
「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」キザな【文句】。【彼女8-9】		不満 (中3・韓2・英4)	△
シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、【あくらをかいて】いたはず。【彼40】		足を組んで座る (字義通りの意味) (中1・英1)	△
この人のことを【もう】少し知ってみたい気がする。【彼女50】		すでに (韓1)	△
せめて2時間前くらいに【負けて】もらえませんか。【彼女21】	(誘惑に) 負ける (英1)	△	

【彼女】【彼】: 材料文。番号は稿末資料の文番号。

4 誤った語義解釈をつくる要因

4では語が持つ特性に注目し、誤った語義解釈をもたらす要因について考察する。誤った語義解釈はその要因から表3のように分類される。表3の「箇所」は小説で誤った語義解釈が見られた箇所、異なり数である。「人数」は誤読した人数、「総数」は誤読総数で、誤読が見られた各箇所での誤読した人数を累計した。()の数字は学習者24名中何名が誤読したかを示す。表の最下部に辞書を引いた語句数の平均値を載せる。誤った語義解釈には4類型がある。以下、類型ごとに例をあげて説明を加える。

表3 誤った語義解釈

誤った語義解釈の要因	中国 (N=8)			韓国 (N=8)			英語 (N=8)		
	箇所	人数	総数	箇所	人数	総数	箇所	人数	総数
4.1 漢字の字形認識における誤り 例：今は後悔の塊→【誤】鬼 (6)、魂 (2) 例：妙に胸を騒がせる→【誤】一秒ごとに (1)、少し (1)	0	0	0	7	7	12	5	5	9
4.2 音韻情報の使用における誤り 例：つまらない意地の張り合いから[...]→【誤】韓国語にない漢字語である「意地」의지 (ういじ) を、同じ発音で韓国語にある「意志」의지 (ういじ) と解釈 (4)。 例：「さしあたり君の電話番号を知りたい」→【誤】人を指して (1)	0	0	0	2	5	5	0	0	0
4.3 語の構成要素の分析における誤り 例：元同僚として当然よ、なんて突っばねてね→【誤】突然言って (6) 例：世話好き→【誤】世の中の話が好き (4)	9	6	13	11	8	24	7	6	9
4.4 多義的な表現の解釈における誤り 例：私は花嫁の手をしていたブーケの色に似たミモザを見下ろしながら呟いた→【誤】花・ドレス (14)	3	8	10	4	8	16	5	5	10
辞書を引いた語句数の平均* *平均=総語句数/人数	10.9			13.4			26.1		

4.1 漢字の字形認識における誤り

韓・英は漢字の字形認識を誤ることで、誤った語義解釈をすることがある。

(9) で6名が「塊 (かたまり)」を「鬼 (おに)」と捉えた。うち、1名は「今は後悔して鬼のように恐れ存在である」と自ら説明も加えた。その解釈はすべての文脈と食い違いがなく、整合性があるため、誤りに気づかない。

(9) 「今は後悔の塊。彼との別れを後悔している。意地ばかり張っていた日々を後悔してる。」
(「彼女」p.30) (韓4・英2)

他にも、(10) で「妙に」を「一秒ごとに」(韓1) や「少し」(韓1) と解釈した。その解釈も他の文脈と食い違いがないと考えられる。

(10) 妙に胸を騒がせる疑念は、徐々に芽生えた好奇心でもあった。
(「彼女」p.31) (韓2)

4.2 音韻情報の使用における誤り

「意地」は韓国語に存在しない漢字語である。次の(11)で韓4名はこの漢字を1字ずつ音韻化し、「의 (うい)」と「지 (じ)」の音をあて「의지 (ういじ)」と発音したところ、韓国語に存在する漢字語の「意志 (의지)」と同じ音のため、「意地」を「意志」だと解釈する。この解釈は先行文脈・後続文脈と整合性がある。しかし、当該文脈とは食い違い、整合性を持たせるには特別な状況が必要となる。

(11) つまらない意地の張り合いから彼を失ってしまう以前の自分に、戻れるものなら今すぐに戻してほしい。
(「彼女」p.28) (韓4)

「意地」を「意志」だと解釈した4名の発話データには「意志 (의지)」の直前にポーズや言い淀みの迷った形跡がない。つまり「意地」を未知語とは考えず、その報告もない。このように、韓は日本語漢字語の語義を解釈する際、日韓同形語の知識とともに韓国語の音韻情報を使うことで誤ると考えられる。

また、(12) では「さしあたり」をその音韻情報を使用して、「人を指して」と解釈した。これはひらがなの音韻情報を使っていると考えられる。

(12) 「さしあたり君の電話番号を知りたい」 (「彼女」 p.28) (韓1)

4.3 語の構成要素の分析における誤り

中・韓・英は未知語に遭遇した際、語の構成要素を分析して意味を推測するが、次の (i) と (ii) のような要因で誤ることがある。(i) 読み手の持っている L2 漢字知識からの推測、(ii) 語の組み合わせからの推測、である。

「読み手の持っている L2 漢字知識からの推測による誤り」は次のようなものである。(13) において中4名と韓2名が、「突っばねて」の意味を、自分が知っている「突」の意味から推測して「突然言う」と誤った。この解釈はすべての文脈と整合性がとれている。ちなみに、英2名は「笑ってね」と解釈するが、英の場合は漢字の字形認識の誤りとなる。

(13) 元同僚として当然よ、なんて突っばねてね。 (「彼女」 p.30) (中4・韓2)

一方、「語の組み合わせからの推測による誤り」は、「おばあちゃんっ子」を「おばあちゃんにかわいがられた子」ではなく、字義通り「おばあちゃんの子ども」と解釈する(中1・韓5)ものである。その解釈は文脈と大きく食い違いがあり、整合性がとれないが、学習者は気にしない。

4.4 多義的な表現の解釈における誤り

「ミモザ」は多義語で、花の名前でもあり、この花に似た色のカクテルの名前でもある。(14) では主人公の彼女がバーで飲んでいる「カクテル」を指す。しかし、中・韓全員にとってミモザは未知語であったため、辞書で調べたり語義を推測したりするが、中6名と韓7名は「花」と誤った。この解釈は「ミモザに一滴の涙が沈んでいた」「酔っている」という後続文脈と食い違いがあるが、その手がかりを軽視してなされているようである。一方、英は全員「ミモザ」が「カクテル」であることを知っており、正しく解釈した。

(14) 私は花嫁の手にしていたブーケの色に似たミモザを見下ろしながら眩

いた」(4文挟む) ミモザに一滴の涙が沈んでいた。酔っている。

(「彼女」 p.30) (中6・韓7)

また、(15) の「あぐらをかく」は字義通りの「足を組んで座る」の意味と、「その地位に甘んじる」の2つの意味がある。ここでは後者の意味であるが、学習者は「日本式の結婚式では新郎はあぐらをかいて座っている」と考え、字義通りの意味で解釈した。

(15) 朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、舞いあがって、シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、あぐらをかいていたはず。

(「彼」 p.36) (中1・英1)

5 まとめ

本稿は、上級学習者が小説を読むときにつくられた誤った語義解釈について、文脈との整合性と、誤った語義解釈がつけられる要因を明らかにした。文脈との整合性を見ると、直前文脈だけでなく、ストーリーとして理解している先行集合文脈を使って語義解釈をする(例：舞いあがって→舞台上がって)ことがわかった。また、その整合性の度合いは、(a) すべての文脈と整合性がとれる解釈、(b) 部分的には整合性があるが、別の文脈を考えると食い違いがある解釈、(c) 文脈と大きく食い違いがある解釈、まで幅があることがわかった。この点は従来議論されていない。

一方、誤った語義解釈をもたらす要因について母語別に見ると、漢字の字形認識の誤りは韓・英に、音韻情報の使用の誤りは韓だけに見られた。語の構成要素の分析における誤りは中・韓で多い一方、非漢字圏の英では誤りが少ない。これは、中・韓は辞書を引かずに語の構成要素から語義を推測する一方、英は辞書を高頻度で使用し、辞書を引いた語句数の平均が26.1と、韓の13、中の10.9に比べ高いということに要因がありそうである。本調査では自然な読みの姿を重視し、辞書の使用も学習者に任せた。中国人の場合、読解では漢字がかなりの手助けとなるため、辞書を使わないというのも自然な読みの姿である。

また、多義的な表現の解釈は母語に関係なく難しいようである。従来も中国人を対象とした研究で、カタカナやひらがな表記の語をその表記の類似から別の語と混同する(野田・花田・藤原2017)という指摘はあったが、本稿で示されたように、韓と英が高頻度で漢字の字形認識を誤ることや、韓が音韻情報の使用により誤ることはきちんと議論されてこなかった。

L2読解における語義解釈は、文脈との整合性でも、また、字形認識や語構成の分析などでも処理がゆるく、詰めの甘さがある。会話や作文では誤りがあっても聞き手や読み手からフィードバックが得られやすいが、理解活動である読解ではそういかないからこそ、より正確な文章理解が必要となる。読解の教授の際には、本稿で述べたような要因によって誤った語義解釈がつけられることに留意したい。本稿は語義解釈から読解過程の一端を明らかにした。今後も実証的な研究知見を積み重ねることが、読解教育を前進させると考える。

〈一橋大学大学院生〉

謝辞

「彼女の彼の特別な日」「彼の彼女の特別な日」の使用を快諾してくださった著者の森絵都氏に心から感謝します。本稿の執筆にあたり、一橋大学大学院の石黒圭先生にご助言をいただきました。明治学院大学の林晃子氏と渡辺恵美子氏、名古屋外国語大学の中北美千子氏、査読者の先生方には貴重なコメントをいただきました。記して感謝を申し上げます。

付記

本稿は、科学研究費助成事業(基盤研究(C))「日本語学習者の小説読解困難点に関する実証的研究と読解支援教材開発のための研究」(課題番号17K02880)の研究結果の一部である。

注

- [注1] …… SPOT90は筑波大学が開発したテストで、31～55は初級(N4, N5に対応)、56～80は中級(N3, N2に対応)、81～90は上級(N1に対応)とされる。
[注2] …… 森絵都(2005)「彼女の彼の特別な日」「彼の彼女の特別な日」。103文。
[注3] …… 「彼」:「彼の彼女の特別な日」
[注4] …… 「彼女」:「彼女の彼の特別な日」

参考文献

- 石黒圭(2008)『日本語の文章理解過程における予測の型と機能』ひつじ書房
久野雅樹(2009)「単語の読みと心的辞書」大村彰道(監修)、秋田喜代美・久野雅樹(編集)『文章理解の心理学』北大路書房
時枝誠記(1951)「文章論の一課題」『国語研究』8。愛媛国語研究会(山口仲美(編)(1979)『論集日本語研究8 文章・文体』有精堂所収)
野田尚史・花田敦子・藤原未雪(2017)「上級日本語学習者は学術論文をどのように読み誤るか—中国語を母語とする大学院生の調査から」『日本語教育』167, pp.15–30。
蒙榘(2018)「文章理解過程における日本語学習者の固有名詞の意味理解—文脈の手がかりに着目して」『国立国語研究所論集』14, pp.125–143。
森絵都(2005)「彼女の彼の特別な日、彼の彼女の特別な日」ダ・ヴィンチ編集部(編)『秘密。私と私のあいだの十二話』pp.28–37。メディアファクトリー
山梨正明(1988)「文脈理解への言語学的アプローチ」『人工知能学会誌』3(3), pp.301–311。

稿末資料

材料文「彼女の彼の特別な日」

[1]元恋人の結婚式の帰りに、初めて一人でパーヘ立ち寄った。[2]仄暗いカウンターの片隅で胸のざわめきを鎮めたかった。[3]なのに隣席の男から声をかけられ、気がつくや星座がどうの血液型がどうのと質問攻めにあっていた。[4]お願いだから放っておいてほしい。[5]私が席を立ちかけた瞬間、男は言った。[6]「互いにつづつ願いを叶え合いませんか」[7]「願い?」[8]「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」[9]キザな文句。[10]私は失笑して言った。[11]「それなら、私は時間を二年前に戻したい」[12]今日、別の女と晴れやかに笑っていた新郎がまだ私の恋人だった二年前。[13]いつも隣で笑っていたのは私のはずだった。[14]つまらない意地の張り合いから彼を失ってしまう以前の自分に、戻れるものなら今すぐに戻してほしい。[15]「二年前か…。ちょっと難しいな」[16]「なら二日でもいい。二日前に戻して」[17]彼がまだ完全に別の女のものになっていなかった二日前。[18]結婚なんてやめて私とやりなおして。[19]なりふりかまわずにそう頼んだら、彼は迷ってくれただろうか。[20]いや、「君の幸せを心から願っています」と、結婚報告のメールに添えてよこした彼が迷うわけがない。[21]「それも難しいな。せめて二時間前くらいに負けてもらえませんか」[22]私は言葉に詰まった。[23]二時間前。[24]なるほど、その程度なら今からでも取り返しがつきそうだ。[25]そして私はその二時

間前に、確かに一番大事な何かを置き忘れてきたような気がしていた。[26]「わかったわ。二時間前で手を打ちましょう」と、私は言った。[27]「じつは私、その頃、忘れられない人の結婚式にいたの」[28]男は瞳を強ばらせ、とても素朴な困感顔を試みせた。[29]「すみません。つらいことを思い出させてしまったようで」[30]「ううん、つらくなんてなかった。だって式の間中、私が考えていたのはたった一つきりだから。自分はちゃんと微笑んでいるか。彼の選んだ花嫁よりも綺麗で幸せな女に見えるか。つまらないプライドの塊みたいになって、全力で平静を装ってた。来てくれてありがとうって彼が声をかけてきたときも、元同僚として当然よ、なんて突っぱねてね」[31]見ず知らずの男に何を話しているんだか。[32]そう思いながらも口が止まらない。[33]「今は後悔の塊。彼との別れを後悔している。意地ばかり張っていた日々を後悔してる。そして何より、彼の特別な日に自分のことばかり考えていたことを後悔してる。もしも二時間前に戻れたら…」[34]私は花嫁の手にしてきたブーケの色に似たミモザを見下ろしながら呟いた。[35]「どんなにつらくても、彼にちゃんと伝えたい」[36]「なんて?」[37]「結婚おめでとう」[38]無理をして微笑んだ。[39]「さすが、ミモザに一滴の涙が沈んでいた。[40]酔っている。[41]みっともない。[42]隣の男はさぞかし呆れているだろう。[43]けれど男は驚くほど誠実な困

感顔を保ったまま、胸のポケットに挿していたペンに手を延ばした。[44]「降参です。時を戻せない僕にはあなたの願いを叶えることができない。よって、僕の願いであるあなたの電話番号も聞かずにいいから。でも、もしもその新郎の番号を教えてくれたら、あなたの伝えたかった言葉を代わりにお伝えすることはできますが…」[45]私は初めて男を正面から捉えた。[46]思ったよ

りも丸顔の三枚目風だった。[47]この人はキザなのかお人良しなのか。[48]それともただの世話好きか。[49]妙に胸を騒がせる疑念は、徐々に芽生えた好奇心でもあった。[50]この人のことをもう少し知りたい気がする。[51]彼の差し出したペンを受けとり、私はコースターに自分自身の電話番号を記した。

材料文「彼の彼女の特別な日」

[1]祖母の四十九日、親戚一同との会食の帰りに、初めて一人でバーへ立ち寄った。[2]昔の前では平静を装っていたものの、祖母の魂が今日を限りに昇天してしまうことを思うと、おばあちゃんっ子の僕には並々ならない喪失感があった。[3]行かないでくれ、おばあちゃん。[4]そんな未練を引きずりながら酒を飲み、ふと横を見ると若き日の祖母の写真にそっくりの女性が一人で酒を飲んでた。[5]これはたぶん、いやきっと、祖母の魂が最後の力をふりしぼってセッティングしてくれた縁に違いない。[6]僕は勇気をふりしぼり、生まれて初めて女性に声をかけた。[7]「お一人ですか？」[8]高鳴る鼓動。[9]連まる脈拍。[10]しかし、どうやら盛りあがっているのは僕だけで、彼女はこちらを見ようともしない。[11]以前、会社の同僚から「星座と血液型の話を読んだら面白い」と教わったのを思い出して実践してみたものの、いちころどころかますます彼女を白けさせて終わった。[12]こうなったら最後の手段。[13]僕は以前、得意先の係長に教わった「とっておきの殺し文句」で勝負に出た。[14]「互いにつづつ願いを叶え合いませんか」[15]「願い？」[16]「さしあたり僕は君の電話番号を知りたい」[17]ふりむいた彼女の冷たい顔が熱くなった。[18]おまえは人の言葉を鵜呑みにしすぎる。[19]年中そうこぼしていた祖母の表情が脳裏をかすめていく。[20]「それなら、私の願いは……」[21]彼女は完全に僕を軽蔑した様子で無理難題を突きつけてきた。[22]二年前に戻りたい。[23]二日前に戻りたい。[24]こうして僕をからかい、煙に巻いて逃げる気だ。[25]けれど二時間前の話になったところでふいに雲行きが変わった。[26]「私、忘れられない人の結婚式にいたの」[27]彼女は雨に打たれた彫像みたいな顔で語り始めた。[28]唇に貼りついた人工的な笑みが痛ましく、寒々しい。[29]二時

間前に別の女性と結ばれたその男のことを本気で思っていたのだろう。[30]ああ、この人はやっぱりおばあちゃんと違う。[31]当たり前だが、ふいにそう思った。[32]祖母の魂は今頃、まだどこかに新しく生まれ変わるための準備体操でもしているのだろうが、今、目の前にいる彼女の魂は僕と同じこの世界で苦しみ、さまよっている。[33]僕が初めて声をかけた女性。[34]よく見ると昔の祖母よりも歯並びが良く、眉のラインも美しい。[35]こんな女性を泣かせているのはどんな男だろう。[36]結婚おめでとう。[37]そう伝えなかったことを悔やんでいると彼女が言ったとき、僕はわけのわからない衝動に駆り立てられて、お節介にも新郎の電話番号を尋ねていた。[38]その男はきっと彼女が祝福の言葉を口にしなければならなかったことなどに気がしないだろう。[39]なんせ自分の結婚式だ。[40]朝からバタバタと慌ただしくて、緊張して、舞いあがって、シャワーのように降りそそぐ祝福に慣れきって、あぐらをかいていたはず。[41]そして今頃は二次会か。[42]シャンパンをがぶ飲みし、二人のなれそめクイズかなんかで盛りあがり、「キッス、キッス」なんて煽られてニヤついているんだ。[43]だからこそ教えてやりたかった。[44]この薄暗いバーの片隅で、たった一人で、うんと無理をして彼女の眩いた「おめでとう」の重みを。[45]とはいえ、彼女が本気でコースターに電話番号を書きだしたときはびっくりした。[46]え、マジ？[47]ほんとに電話するの？[48]「おまえは嘘をつかない子だ。それだけが取り柄だが、それだけで十分だよ」[49]祖母が残した言葉を思い出して、僕は深く覚悟する。[50]よし、こうなったら安心して新郎に電話をしよう。[51]彼女の「おめでとう」を全力で伝えよう。[52]そして願わくば、その男から彼女の電話番号を聞きだしたい。

凡例 [1]: 文番号。原文は縦書きで、「」で括られた会話文のところで改行されており読みやすい。